

## 第25回 臨時休業中の私とこれからの私 その4

～ 3年生 KUの課題から ～

前回に続き、「臨時休業中の私とこれからの私」と題して行ったKU（光陵ユニバース/総合的な学習の時間）の学習活動として、提出された生徒たちの記述をいくつか紹介したいと思います。生徒たちは、困難な状況に直面しながらも、しっかりと自分自身と向き合い、今の自分の思いを表現してくれました。今回で終了です。

### ○ T. A.

この臨時休業中に、アナウンサーになるという将来の夢を見つけた。実は過去にも同じように思うことがあったがとても厳しいということを感じ諦めてしまった。しかし、ニュースを見て、この状況下で最前線で情報を的確に伝え、さらにテレビの前の人たちを明るく元気付けようとする姿がかっこいいと思い、再び憧れの気持ちを抱いた。

アナウンサーは、毎朝早く起きるだけでなく、忙しい日々を過ごしている。そのため、計画性があり、自己管理できる人間でなければならない。そのような人間になるべく、一週間の初めに計画を立てて、余裕を持ってコツコツ取り組むようにしたら、すごく効率が良くなり、計画性の大切さを学んだ。そして今までを振り返り、自分を甘やかすことができるのも厳しくすることができるのも自分自身だったのだと気づいた。

また、知識を増やすために新聞を見ていると、多くの医療従事者を初め、この社会はたくさんの人々が支え合って生きていると改めて感じたと同時にその記事でスポーツ選手の限られた環境を憎むのではなく、その中で自分ができることを探すという考え方により、この状況をプラスに捉えられるようになった。

だが、この期間では学習面だけでなく色々な面で日々不安が重なった。時には思いが溢れてしまうこともあったので、一人で抱えきれずに友達を頼った。今思えば、友達にもそれぞれ様々な状況があり、大変なはずなのにみんな真剣に一緒に考えてくれたり、たくさんの助言をくれて、多くの考え方を教えてくれた。私はいつでも頼ってきていい場所がある、一人じゃないと感じさせてくれる人がいることに本当に感謝している。一生大切にしようと思うと同時に私も頼られるように素直に謙虚に優しさを持って人に接しよう心に決めた。

この期間でたくさん悩んだり辛いこともあったが、色々な考え方を学び、自分を成長させた意味のある期間にもなった。たくさん与えてもらった分、将来私も人に勇気や元気を与えられるようなアナウンサーになりたい。

○ M. K.

この臨時休業で友達と会えなかったり、部活を引退試合をしないままいつの間にか引退していたり、ほぼ毎日家にいることになったり、と全く想像もつかなかったようなことがたくさん起こった。私だけではなくみんながそうだが、受験生ということもあり、周りの状況が見えない中で勉強したり、1人での時間が多かったりとつらいこともあった。この期間の最初の1週間ほどは勉強しても集中出来なかったり、だらけてしまったりする日もあった。だが、徐々にこの生活に慣れてきて勉強面では、仕方や効率が良くなったと思う。自分の勉強をする時の効率や集中力、弱点を知るなど自分についての分析もすることができた。毎日12時に寝て7時に起き、生活リズムを安定させることを心がけた。この休業では他人ではなく過去の自分と今の自分を比較させてこれからの自分を高めるという意識をもって勉強を行った。このことは将来いつでも役に立つことだと思う。ネットには入試に関していろいろな情報が溢れる中、それに流されずに今できることを確実にしようということも心がけた。また、この臨時休業の間は家族と話す時間が増えたことが良かったと思う。受験や将来についての相談に乗ってくれたり、確実な情報を提供してくれたり、と私ひとりではできないことをたくさんしてくれた。毎日家にいたからこそこのような感謝を身にしみて感じられたのだと思う。今年はこのような状況で大変なこともかなりたくさんあると思うが、1日1日を大切に、常に過去の自分に負けないという意識を持ちたい。志望する大学に合格できるよう、他人にも過去の自分にも負けない努力を重ねたいと思う。それに加えて、家族への感謝への気持ちを忘れずに生活していきたい。

○ N. I.

この臨時休業中、私は将来やりたい、やってみたいことが決まった。それに伴って志望校も決めることができた。今まではやりたいことが特になく大学に行ければいいと思っていたが、この期間、普段は時間がなくて天気予報くらいしか見ていなかったテレビを食事の時などに見るようになったり、大学についてじっくり調べてみたりしたことがきっかけとなり、一年後の自分、大人になった自分を想像し将来について考えたことで、将来こうなりたいという理想ができた。また、私は休業中に部活動を引退した。これは自分にとってとても大きな変化だった。これは勉強を優先するためではあるものの、自分でした選択だった。しかし、今まで私の生活のど真ん中であって毎日の楽しみだったものがなくなったというのは大きかった。でも、切り替えないといけないと思った。偶然私は志望校が決まったタイミングと部活動を引退したタイミングが重なり、今まで部活動に向けていたエネルギーを割とスムーズに勉強に向けることができた。

自分の生活が変わった。そこで24時間の自分の生活を自力で管理することの難しさを感じた。普通の学校生活を送っていた時は隙間時間を有効活用できるよう努めていたが、この期間は一日のほとんどが空白で自由だった。自分で予定を組み立て行動するのはとても難しく、勉強から逃げたくなった日もあったが、今やらないで後で苦労するのは自分なのだとすると逃げたくなくてそれでもやはり逃げてしまう時もあった。しかし、上手にリフレッシュしまた勉強に戻ることができた。

自由度が高ければ高いほど個人個人の差が出るのは当然のことだ。だからこそ、この期間をどれだけうまく過ごせるかが休業明けの大きな差になると思った。だから、少しでも良い差をつけようと自分なりに工夫し努力した。この生活を通して、自分の弱いところや得意なこと、苦手なことが自分でもわかるくらい浮き彫りになった。自分を客観的に見て分析することができたのだ。この経験は、今後の生活や社会に出たときに役立つと思うし自信にもなると思う。これから始まる新しい生活にも自分なりに上手に対応していきたい。